

令和5年度 事業経営評価

団体名	(公財) 大阪国際交流センター	所管所属名	経済戦略局
-----	-----------------	-------	-------

中期目標	(1) 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容
	本市に居住する外国人住民を、公的支援の受け手という視点に加えて、主体的に大阪をともにつくる担い手と位置づけ、外国人住民のもたらす多様性を活かし、活力あふれる魅力あるまちづくりをめざすというビジョンのもと、外国人住民が、地域社会の一員として地域と交流し、安全・安心で快適に暮らし活躍できる多文化共生社会を実現していくための取組を進めていくこと。
	(2) 中期目標期間 令和2年12月1日～令和6年3月31日
中期目標	(3) 中期目標の期間終了時において、(1)の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態
	国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め地域社会の一員として共生することができる社会の実現に向けて、外国人住民が多文化共生の担い手として共に地域社会において活動すること(※)について、当該地域社会の住民の理解が深まり、当該活動を促進しようとする意識が高まっている状態 ※「外国人住民が多文化共生の担い手として共に地域社会において活動すること」とは、例えば、外国人住民が地域行事に参加あるいは運営側として参画することなどを通じて地域社会において日本人住民と交流し、自国の文化や習慣などを地域の住民と共有することによって、地域社会における多文化理解を深めるとともに、共に地域社会を担うパートナーとしての意識を醸成していくといったことなどをいう。

●最終年度【中期目標の期間を通じた評価】

外郭団体の自己評価 中期目標の期間を通じた評価	最終目標達成状況	中期計画に定めた指標及び目標に基づく評価を踏まえた 団体 の総合的な評価
	ア	全期間、全ての指標において目標を達成できた。 指標Ⅰについては、他団体(大阪市社会福祉協議会等)との連携を密に行うことにより、目標値を上回る実績を達成することができた。 指標Ⅱについては、開講クラス数の増、参加高校の増などにより、目標を達成することができた。 指標Ⅲについては、外国人住民への呼びかけなどの広報活動により、目標値を上回ることができた。 指標Ⅳについては、子育て、ワクチン接種など、外国人住民にとって関心の高いテーマを中心に情報発信を行うことができ、件数も目標値の2倍となった。 指標Ⅴについては、大阪市内で住民数の多いベトナム人、フィリピン人のコミュニティ団体、他の外国人を支援する団体や、地域の団体などとの連携を実現することができた。
	ア：達成 イ：達成見込み(計画期間中) ウ：未達成	
市の評価		中期計画に定めた指標及び目標に基づく評価並びに当該評価を踏まえた 本市 の総合的な評価
		団体の取組は、中期計画期間の全ての指標において目標値を達成しており、市における中期目標の達成状況の測定に当たって実施した外国人の地域活動に関する意識アンケートの結果においても、肯定的な回答が74.8%と最終年度の目標としていた70%を上回っている。 以上のことから、外国人住民が多文化共生の担い手として共に地域社会において活動することについて、地域社会の理解が深まり、当該活動を促進する意識が高まっているものと評価できる。
		助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪世外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例第7条第5項】(※必要な場合のみ)

●最終年度【中期目標の期間を通じた評価】

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一 (※分野ごとの評価)

中期計画

団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容
 【外国人住民等の地域社会における活動機会の提供】
 「多文化共生の担い手として地域社会において活動する」意欲のある外国人住民にその活動の機会を提供し、外国人住民のエンパワーメントを支援する。
 令和2年度に市民局の委託により作成した「多文化交流お助けガイド」を活用し、区役所や社会福祉協議会をはじめとした地域団体と連携し、外国人住民等が担い手となって、地域社会において日本人住民との交流を積極的に進め、顔の見える関係構築をめざす。
 特に将来の高度外国人材である留学生は、地域において外国人住民と日本人住民の相互理解や交流の橋渡し役としても期待できるため、留学生にも積極的に活動の機会を提供する。

中期計画達成状況

指標 I	外国人住民が参加や参画を通じて地域社会において日本人住民と交流する機会となる事業の実施回数 進捗率：実施回数/13件							
	R2	中期計画 進捗率	R3 (4月～12月)	中期計画 進捗率	R4	中期計画 進捗率	R5【最終】	中期計画 進捗率
目標値		%	3件	23.1%	5件	61.5%	5件	100.0%
実績値		%	4件	30.8%	6件	76.9%	7件	130.8%

中期計画期間における具体的な取組内容(実績)
 令和3年は、大阪市社会福祉協議会等の協力を得て、地域のニーズに合ったテーマ(「子育て」や「文化の違い」等)を設定して、10月～12月の間に市内4か所で開催した。また、外国人スピーカーについては、4月に募集チラシを作成・配布し、6月には応募者14人を対象にオンライン説明会を開催したほか、財団事業に参加した外国人を広く勧誘し、登録者を確保した。
 令和4年は、キックオフイベントとして、大規模シンポジウム「日本で暮らす～外国ルーツの子どもとその家族～」を開催し、第3部で「多文化交流会」を実施した。また、西区、西成区、阿倍野区でも「多文化交流会」を実施するとともに他の事業の中での実施や大学での実施にもつなげることができた。
 令和5年は、2月に住之江区、その他団体(2団体)との共催で実施した。その後、6月のキックオフイベントの第3部でも「多文化交流会」を実施した。以後についても、各区の社会福祉協議会等と連携しつつ、6月に都島区、11月に西成区、12月に平野区でも「多文化交流会」を開催、財団単独でも、日本人住民と外国人住民を対象にした「防災ワークショップ」(9月)において、「多文化交流会」を開催するなど、多方面での事業展開を図ることができた。

指標 II	留学生に活動の機会を提供した件数							
	R2	中期計画 進捗率	R3 (4月～12月)	中期計画 進捗率	R4	中期計画 進捗率	R5【最終】	中期計画 進捗率
目標値		-	75件	-	100件	-	100件	-
実績値		-	90件	-	120件	-	122件	-

中期計画期間における具体的な取組内容(実績)
 日本人学生との交流の機会の少ないアジア出身の留学生が中心となり、世代の近い高校生と英語や韓国語会話を教えながら交流し、また高校生のグローバル人材としてのコミュニケーション能力を高める講座として、GULS(Global Understanding with Local Skills)を開催した。令和3年は講師として9名の留学生が参加、90回の講座を開催した。令和4年は、講師として10名の留学生が参加、天王寺区内の公立高校(3校)の生徒に対して120回の講座を開催した。
 令和5年は、講師として13名の留学生が参加、市内4区の公立高校(7校)の生徒に対して120回の講座を開催した。
 また、ポーランド出身の留学生が講師となり、市民に対して2回の文化紹介講座を開催した。

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	A	A: 指標全部達成 B: 指標全部未達成 C: 指標一部未達成	中期計画の目標達成状況【中期計画期間】	A	A: 達成 イ: 達成見込み(計画期間中) ウ: 未達成
中期計画期間の達成状況について					
指標 I、IIともに目標値を達成することができた。 指標 Iについては、キックオフイベントを実施したことなどにより、各区社会福祉協議会をはじめとする団体や関係者との関係性を構築した結果、コロナの影響など実施が厳しい期間がありながらも多文化交流会を開催することができ、目標を大きく上回る結果につながった。 指標 IIについては、GULSの開催に加えて、自国文化の紹介講座も開催したことにより、当初の目標を上回る結果となった。 令和3年・4年は、高校生の参加は3校のみにとどまっていたが、令和5年は天王寺区内の公立高校に限らず、広く市内の公立高校を対象に募集を行った結果、4区(天王寺区、中央区、阿倍野区、住之江区)にある7校・44名の生徒の参加を得ることができた。					

市の審査

中期計画の目標達成状況【中期計画期間】	A	A: 達成 イ: 達成見込み(計画期間中) ウ: 未達成	「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	A	A: 有効だった B: 有効ではなかった
「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
指標 I、IIともに目標を達成することができた。 指標 Iについて、各種団体との関係性の構築に努めたこともあり、事業を実施する地域等を毎年拡大、多方面での事業展開を図ることができた。 指標 IIについて、事業対象を天王寺区内の公立高校としていたものを、広く市内を対象としつつ、異国文化の紹介講座も実施するなど、新たな取組も行っている。 以上を踏まえ、団体の自己評価は妥当である。					
「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
団体の取組は、中期計画で定めた目標値を達成しており、外国人住民等が地域社会において活動する機会を着実に提供したものと評価できる。市における中期目標の達成状況の測定に当たって実施した外国人の地域活動に関する意識アンケートの結果においても、肯定的な回答が74.8%と最終年度の目標としていた70%を上回っており、外国人住民が多文化共生の担い手として共に地域社会において活動することについて、地域社会の理解が深まり、当該活動を促進する意識が高まっているものと考えられる。					

●最終年度【中期目標の期間を通じた評価】

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一2

(※分野ごとの評価)

団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

中期計画

【多文化共生についての理解促進に向けた住民への情報発信】

「アイハウス多文化交流プラットフォーム」※の運営により、自国の文化紹介や日本での生活情報の発信ができる外国人住民等の「達人」を発掘する。また、財団は、達人及び達人のスキルを活かした活動（多文化共生についての理解促進に向けた活動等）をプラットフォームを通して発信する。

合わせて、プラットフォームを広く周知し、地域社会へアプローチする。

※大阪で暮らす外国人が、自身の文化を伝える趣味・特技を活かし、活動（文化交流を目的としたイベント・講座、動画などによる情報発信等）を行うプラットフォーム。

指標Ⅲ 情報発信に関するスキルを有する人材（達人）登録者数（新規登録者）
進捗率：既登録者数/26名

	R2	中期計画 進捗率	R3 (4月~12月)	中期計画 進捗率	R4	中期計画 進捗率	R5【最終】	中期計画 進捗率				
目標値		%	6名	23.1%	10名	61.5%	10名	100.0%				
実績値		%	9名	34.6%	13名	84.6%	19名	157.7%				

中期計画期間における具体的な取組内容（実績）

令和3年は、日本語教室や登録ボランティア等、財団事業の参加者を中心に登録依頼や達人登録チラシの配布を行った。また、財団が連携する外国人コミュニティや外国人が在籍する団体・学校等へも新規登録者の獲得に向けて協力を依頼するなどし、9名の新規登録者を得ることができた。

令和4年は、在阪総領事館や外国人コミュニティを中心に「アイハウス多文化交流プラットフォーム」の紹介を強化するとともに、財団事業に参加する外国人にも達人登録を広く呼びかけるなどし、13名の新規登録者を得ることができた。

令和5年は、財団のホームページを中心に「アイハウス多文化交流プラットフォーム」の紹介を行うとともに、財団事業に参加する外国人や外国人インターン留学生に達人登録を呼びかけた。また、令和5年4月には、登録者の情報を更新した「達人紹介パンフレット」を刷新し、周知に努めるとともに、外国人を雇用する企業への働きかけも行った結果、19名の新規登録者を得ることができた。

指標Ⅳ ウェブサイトを通じた情報の発信件数

	R2	中期計画 進捗率	R3 (4月~12月)	中期計画 進捗率	R4	中期計画 進捗率	R5【最終】	中期計画 進捗率				
目標値		-	15件	-	20件	-	30件	-				
実績値		-	16件	-	26件	-	61件	-				

中期計画期間における具体的な取組内容（実績）

令和3年は、「子育て」関連の動画のほか、コロナ禍での生活の工夫やワクチン接種についての動画を作成し発信した。「子育て」のテーマについては、未就学児向けのものだけでなく、学校の成績表の見方といった就学後の子育てに役立つ知識についても発信した。

令和4年は、子育て環境の違い、日本の授乳室、妊娠・出産にかかる費用や手続、日本での育児における注意点などについて発信するとともに、「子育て」や災害への備えについても動画を作成し、合計21件発信した。また、達人の実施するイベント情報も5件発信することができた。

令和5年は、達人自身が大阪での生活の中で体験した内容をもとに、日本の理容室（床屋）に関する動画をはじめ、防災訓練参加体験、日本の健康診断、中国と日本の賞味期限の違い、日本の小中高等学校入学、ごみの分別、引っ越し手続等、計30件の動画を配信した。また、達人自らが企画・実施する、個別イベントの情報についても31件配信した。

指標Ⅴ 情報発信を連携して行う活動団体や事業者の発掘件数
進捗率：既発掘件数/9団体

	R2	中期計画 進捗率	R3 (4月~12月)	中期計画 進捗率	R4	中期計画 進捗率	R5【最終】	中期計画 進捗率				
目標値		%	2団体	22.2%	3団体	55.6%	4団体	100.0%				
実績値		%	2団体	22.2%	3団体	55.6%	4団体	100.0%				

中期計画期間における具体的な取組内容（実績）

令和3年は、大阪商工会議所ホームページからのリンク設定のほか、公益財団法人都市活力研究所のホームページで財団のコミュニティ活動に関するヒアリング概要等が紹介された。また地域振興をテーマとした専門誌「コロンプス」で当事業が紹介されたことも、今後の連携先の獲得に向けた周知機会となった。

令和4年は、2025年大阪・関西国際博覧会の開催に向け、当財団も「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナーとして登録し、外国人のエンパワメントを呼びかけた。また、Philippine Community Coordinating Council（PCCC）及び在大阪ベトナム青年学生協会（VYSA OSAKA）を連携団体として発掘した。

令和5年は、外国にルーツを持つ子どもへの支援を行う大阪大学の団体「阪大ふくふくセンター」や、日本語指導や多文化共生に関する情報発信や企画研修等を行う地域団体「しなやか&Co.（カンパニー）」、さらには港区で「まちづくりの推進」活動を行っている「NPO法人ダ・ヴィンチ倶楽部」、地元・天王寺区での情報発信を行っている「NPO法人まち・すまいづくり」とも連携を図り、「アイハウス多文化交流プラットフォーム」や財団の活動等の情報を発信することができた。また、今後の多様な可能性を見据えたエリア外での取組として、門真市教育委員会が発行する「門真市郷土学習副読本『わたしたちの町 かどま』」に当財団の「多文化共生」の取組の一つである「アイハウス de 多文化体験」などの外国人住民の活動が掲載された。

中期計画達成状況

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	A	A: 指標全部達成 B: 指標全部未達成 C: 指標一部未達成	中期計画の目標達成状況 【中期計画期間】	ア	ア: 達成 イ: 達成見込み(計画期間中) ウ: 未達成
	<p>中期計画期間の達成状況について</p> <p>指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとも目標値を達成することができた。 指標Ⅲについては、財団と関わりのある外国人住民に継続して登録の呼びかけを行ったり、財団に対して、事業の相談、照会があった学校や各種団体に対して、積極的に「アイハウス多文化交流プラットフォーム」の紹介を行ったことから、達人の登録目標を達成した。また、令和4年はウクライナ避難民の受入れなどの社会情勢の影響からウクライナ人の達人を獲得し、令和5年もポーランドやカザフスタンなど登録者が少ない出身国の達人を増やすことができた。 指標Ⅳについては、外国人住民にとって関心の高い子育てなどの情報を中心に、コロナのワクチン接種や防災など日本で生活する上で有益な情報を目標値を大きく上回って発信することができた。 指標Ⅴについては、外国人やその子どもたち等を支援する団体や、大阪市内で住民数の多いベトナム人、フィリピン人の団体などと広く連携することができた。</p>					

市の審査	中期計画の目標達成状況 【中期計画期間】	ア	ア: 達成 イ: 達成見込み(計画期間中) ウ: 未達成	「様式1: 中期目標(3)」 に対する取組の有効性	A	A: 有効だった B: 有効ではなかった
	<p>「外郭団体の自己評価」に対する審査結果</p> <p>指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとも目標値を達成することができた。 指標Ⅲについては、多様な機会をつながりを持った外国人に対する呼びかけを精力的に行い、「達人」の登録につなげることができた。 指標Ⅳについては、「達人」による様々なテーマ・企画による趣向を凝らした動画が作成され、多文化共生の理解促進につながる情報発信を行うことができた。 指標Ⅴについては、様々な取組を行っている連携先を広く発掘することができた。 以上を踏まえ、団体の自己評価は妥当である。</p>					
	<p>「中期目標」達成の視点からみた審査結果</p> <p>団体の取組は、中期計画で定めた目標値を達成しており、多文化共生についての理解促進に向けた住民への情報発信を着実に実施したものと評価できる。市における中期目標の達成状況の測定に当たって実施した外国人の地域活動に関する意識アンケートの結果においても、肯定的な回答が74.8%と最終年度の目標としていた70%を上回っており、外国人住民が多文化共生の担い手として共に地域社会において活動することについて、地域社会の理解が深まり、当該活動を促進する意識が高まっているものと考えられる。</p>					